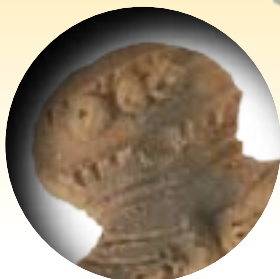


平成20年度企画展

縄文メトロポリス

イ ド サ ク
IDOSAKU



2008 | 12 | 13 (土) ▶ 2009 | 6 | 30 (火)



今から 3,000 ~ 4,000 年前、縄文時代後・晩期の印旛地域には、地域の拠点となりうる大集落がつくられていました。その規模は、さながら大都市メトロポリスといった趣があります。なかでも佐倉市の宮内井戸作遺跡は、隣接する千葉市域部分も含め、この時期の集落のほぼ全域を調査した遺跡として注目されます。

今回の展示では、足掛け 20 年という歳月をかけて行われた発掘調査、整理作業の成果と、総重量 100t に及ぶ膨大な出土品のなかから、人々の暮らしに欠かせない「食」「祈」「装」に関する資料を集め、宮内井戸作遺跡の実像に迫ってみました。





筒形

山形

ミミズク形

様々な形の土偶

祈



地元で作られた
遮光器土偶

住居跡や土坑からは、様々な祈りの道具が見つっています。なかでも東北地方からもたらされた土偶や、その影響を受けて地元で作られた遮光器土偶が注目されます。また、火を受けた石棒は、食料となる動植物の繁殖や子孫繁栄などを願って、この地で共同体の祭祀が行われたことを物語っています。



石棒・石剣・独鈷石



東北からもたらされた
遮光器土偶



異形台付土器



ミニチュア土器



石剣出土状況 (Ⅱ地区 284号土坑)



土偶が出土した土坑 (Ⅲ-3地区 66号土坑)

骨でできた髪飾りや、精巧な文様を施した耳飾り、今でいうネックレスやブレスレットにあたる、ヒスイやサメの歯でできた垂飾品など、多様な装飾品が見つっています。とくにヒスイは、本遺跡の周辺ではとれず、遠く長野県から新潟県にかけて流れる姫川で採れたものを手に入れていました。

装



サメの歯



耳飾り出土状況 (Ⅱ地区)



耳飾り



ヒスイ

土製・骨牙製・石製装飾品

おわりに

宮内井戸作遺跡の集落は、大形の建物や掘立柱建物、道などが計画的に配置されていました。周辺にも江原台遺跡、吉見台遺跡、また国指定史跡井野長割遺跡など、同時代の拠点的な集落があり、縄文都市のような情景が目に見えてくるようです。今回の展示において、「食」「祈」「装」に関わる出土品を通して遥か昔に思いを馳せ、大集落である宮内井戸作遺跡を知っていただく契機となれば幸いです。

